

元競馬場に住む



「目黒競馬場」の跡地に広がる住宅地。遠くに見える左手の森が「目黒不動」、中央の森が「林試の森公園」

現在の場所に越してきたのは小学校5年の時だから、もう67年程ここに住んでいる。しかし7年間ほど、長崎県佐世保市に単身赴任で住民票を移していたので、正確には60年ということになる。



目黒不動の緑

小学校5年から港区青山の小学校に通い、その後もずっと電車通学、電車通勤だったので、佐世保に行くまでは、ほとんど夜間人口としての目黒区民で、佐世保から戻ってきてはじめて昼夜間人口の住民になったわけだ。

近くには、目黒不動尊と林試の森公園という大きなまとまった緑がある。

目黒不動尊は、瀧泉寺という古くからの寺院で、江戸時代には栄えて門前町が発達したと言われている。緑豊かな傾斜地にあり、大本堂や仁王門などがある。甘藷先生こと青木昆陽の墓があり甘藷祭りが開かれている。



林試の森公園

林試の森公園は、明治時代からの林野庁の林業試験場だったところで、1978(昭和53)年につくば市に移転した後、東京都に払い下げられて、1989(平成元年)年に開園した都立の公園である。約12haの敷地には、林業試験場当時の多くの樹木が残されて、地域にとっての貴重な緑がある憩いの場になっている。



「元競馬場前」バスストップ

最寄りのバス停の名前が「元競馬場前」なので、どうしてもよく不思議がられるが、1907(明治40)年から1933(昭和3)年まで「目黒競馬場」というのがあったところで、移転して現在の「府中競馬場」になっているが、目黒記念というレースで名前が残っている。

馬場のコーナーであった面影を伝える曲線の道路もあり、記念碑が1983(昭和58)年に建てられている。

我が家は、昔の馬場の中に建っているわけだ。



目黒競馬場跡記念碑

目黒に住んだのは、父の勤めていた会社の社宅で、退職の時に払い下げられたからだ。

生まれたのは東京の青山だったが、戦争がひどくなってきて母親の郷里である川越の知り合いの家に疎開した。東京大空襲で、青山の家は向かいにあった祖父の家と共に消失し、終戦直後に祖父が建ててくれた世田谷区弦巻町の復興仕様の小さな家に住んだ。父が戦地から復員してきて勤めている会社に戻り、しばらくしてからこの地に移ってきた。



かつてコーナーだった道路

その頃は、目黒通りの坂道はピンコロ舗装で、大鳥神社の交差点はロータリー形式だった。進駐軍の軍用トラックを改造したドアの代わりにチェーンを付けたバスが、アクセルを目いっぱいふかして坂道を上っていた。

まだ、木炭自動車のタクシーが走っていたが、まもなく消えていった。

権之助坂には、狭い歩道に屋台の店が並んでいて見事な桜並木があったが、ある時、消えてアーケードがかかる。目黒川にかかる目黒新橋の橋詰に公営の集合住宅が出来、おそらく屋台の店が入ったのだろう、低層部が飲食店街になった。

当時の国鉄目黒駅は、権之助坂を上り切り、堀割の線路の上にかげられた橋を渡った現在の東口側に、木造の駅舎があった。



高層ビルが立ち並ぶ目黒駅前東口広場

改札口の右側には、チッキ（鉄道小荷物）を扱う大きなカウンターがあって、大きな荷物が並べられる倉庫のような建物があった。

駅前の東口側には都電の始発駅があり、その脇には広い都電の車庫があった。その後、都電は都バスに変わり、都バスがなくなってからは、長いこと空き地になっていたが、今年になって超高層の再開発ビル3棟が完成して大きく様変わりをした。

堀割の手前には、目蒲線の終着駅があったが、18年前に地下に潜り目黒線となり、武蔵小杉で東横線に接続する路線となった。現在は日吉まで延伸しているが、営団地下鉄南北線と都営三田線とにつながって、東横線や地下鉄のネットワークに組み込まれて、非常に利便性が増した。



右が権之助坂 左はバイパス

地上には超高層の駅ビルが建った。

権之助坂は、今では坂の途中から目黒駅を挟むかたちでバイパスが出来て、車の上り専用となり、元の坂は下り専用になった。商店街としては雰囲気が変わってしまった。



看板建築と日本家屋

目黒通りの柿の木坂方面は、畑の中の細い道だったが、1964年の東京オリンピック時の幹線道路網整備で広くなり、環状7号と立体交差し、環状8号線につながった。

元競馬場付近は戦災から免れた地域で、戦前の建物があちこちに残っていた。目黒通りには、木造の日本家屋やいわゆる看板建築の街並みもあったが、時と共に少なくなってしまった。

我が家も建て替える前は、大正から昭和初期の様式だったので、戦前の建物だった。平屋の日本家屋の玄関脇に洋式の応接間がついていて、間口の広い玄関と、縁側から入る、2間の立派な床ノ間のある8畳の座敷があった。奥の四畳半は、炉と床の間、濡れ縁がついた茶室の造りになっていた。

その他の生活スペースはあまり広くなく、生活するにはバランスの悪い間取りであった。

大谷石の門柱と3段に積んだ擁壁の上にリュウノヒゲで覆った土盛りをし、その上に竹垣があったが伊勢湾台風で壊れてしまった。



連続する木造3階建ての街並み

近くには、広い庭園に平屋の立派な日本家屋があって、有名な政治家の家と聞いていた。ある時、道路に停めてあった車が邪魔で通れなくなった車から、その政治家本人が降りてきて大声で怒鳴っているのを見て、本当に住んでいるんだと思った。

また、大きな桜の木がある木造の御木本真珠工場があった。

こうした広い敷地の建物も、時とともに細分化されて戸建ての住宅に変わっていった。

最近では、それほど大きな家でなくても、いつの間にか無くなったと思うと敷地が分割されて、3階建ての戸建て住宅になっていく。

昔、設計事務所にいた時に、不動産会社の営業マンがやってきて、「3階建て住宅についてどう思いますか」と尋ねられたことがある。その頃は木造家屋も2階建てまでというのが常識だったし、「階段の上り下りを考えても3階建て住宅はあまり需要がないのでは」と返事をした記憶がある。

今では土地の価格が高くなって、法律的にも技術的にも木造3階建てが建て易くなり、あちこちに増えてきた。

一方で、かつては当たり前だった工務店による木造在来工法が少なくなって、ハウスメーカーの建物も増えてきた。

横浜市が開催した講演会で講演した元建設省の高官が、「かつて住宅のメンテナンスは地域社会が支えていた。地域に工務店を中心にした関連する職種のネットワークがあって、建物を建



街並みの変遷(スケッチは昭和30年代)



てた後でもそういった地域社会のシステムが建物のメンテナンスを支えていたが、建設業をハウスメーカー中心のシステムに変換したために、その地域社会のシステムを壊してしまった。それは自分がやったことで反省している」と話したのにはびっくりした。今更反省していると言われても困ったものだと、あきれてしまった。近所にも工務店がいくつかあって、それに関係した塗装屋さんとか建具屋さんなどが周辺に立地していたが、何時の間にか工務店などは姿を消している。



街並みの変遷(スケッチは昭和30年代)

目黒区は住宅地が多いが、マンションなどは港区に次いで高価格の街という記事も見たことがある。住みたい街にも上位にランクされているようだ。

目黒郵便局の年賀状の扱い枚数が非常に多いのは、芸能人が多いからと聞いたことがあるが、近所にも有名な映画俳優や歌手などが多く住んでいるようで、時々、道やスーパーなどで本人を見かけたりする。

また、比較的小さな国の大使館が普通の住宅やマンションに陣取っていて、そこに勤務しているらしい外国人が歩いたり、青ナンバーの外交官の車を多く見かけたりするようになった。港区よりは地価が安い目黒に立地しているようだ。



マンションと建売戸建住宅街

大手銀行の社宅や国立の研究所だったところが、マンションになったり、建売の戸建住宅街になっている。

有名な歌手の家だったところが大使館になり、その近くにあった俳優夫妻の家だったところが今では空き地になっているが、どうなるのか。

それに応じて住宅の敷地にあった立派な緑も減っていくが、目黒区には緑化条例があって、小さな余地でも緑化するよう指導されている。

当初は、いじましくも思える緑化対策で何ともいえない思いをしていたが、環境の変化とともに、ささやかな緑が、潤いのある環境づくりを必死に支えているようにも見えて、頑張っているんだという思いにさせられる。

どちらかといえば成熟した住宅地だと思っていたが、街並みはまだまだ変化を続けている。 (2018年9月 記)



マンション建設で保存された5本の桜